

# QCサークル 誕生物語

●荒廃した日本  
1945年

1945年。第2次世界大戦敗戦で荒廃した日本。

●この日本を  
立て直すためには…

エネルギーなし！  
資源なし！  
工業立国  
しかない！

●日本科学技術連盟  
(日科技連) 誕生！

1946年

日科技連  
大日本技術会

(社)日本工業振興会  
(社)日本科学技術連盟  
(社)全日本科学技術者連盟

●当時の日本は…

これではダメね！

当時の made in JAPANは安かろう、悪かろうで、GHQからも品質の悪さを指摘される始末。

●『品質管理』誌の座談会で…

1961年

現場でも気軽に読めるものを！

自分達の意見や考えを出す場が欲しい！

現場でQCの勉強ができる雑誌を！

1961年7月、『品質管理』誌企画の職・組長の座談会があり、そこで、自分たち向けのQCの雑誌を作ってほしいとの要望がありました。

●QCの専門誌『品質管理』誌  
(現在『クオリティマネジメント』誌に改称)の創刊

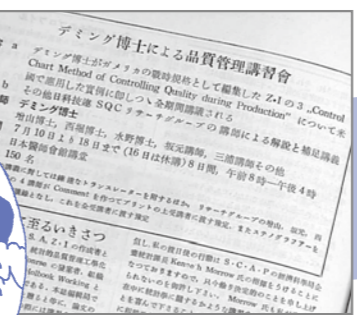
1950年

1950年、部課長・スタッフ向けにQCの専門誌『品質管理』誌が創刊されました。

●QCが経営ツールとして浸透

その結果、日本全土にQCが経営ツールとして浸透していきます。

●QCの研修会を実施

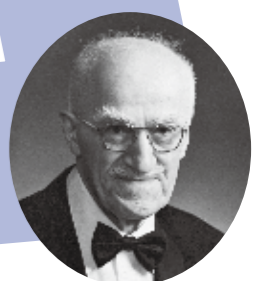


各地で経営者・管理者向けのQCの研修会を実施しました。

●デミング博士



●ジュラン博士



そこで、日科技連は品質向上、人材育成のためにアメリカから品質管理 (QC) の専門家であるデミング博士、ジュラン博士を招きました。

●『QCサークル』誌の前身『現場とQC』誌が創刊

1962年

個人でも買しやすいように1冊50円

この要望を受けて、1962年4月に現場第一線の方々向けに『現場とQC』誌が創刊されました。

これは当時タバコ3個分！

●QCサークルの誕生

こうして結成された小集団を「QCサークル」と名づけました。QCサークルの誕生です。

●創刊号の中で…

この人がQCサークルの生みの親とも言われる  
石川 馨先生

発行に当たって  
石川 馨

『現場とQC』誌の創刊号の中で、本誌を教材としてQCを勉強する小集団を結成してほしいと呼びかけました。

QCサークルを結成して勉強しよう！

●QCサークル本部設立、本部登録制度がスタート

1962年5月 QCサークル本部設立、本部登録制度がスタートしました。

●QCサークル全国組織へ

現在、全国で9支部36地区が活動を行い、本部登録サークルは4万件を超えています。

- 北海道支部 1971年
- 東北支部 1974年
- 関東支部 1964年
- 東海支部 1964年
- 近畿支部 1964年
- 中国・四国支部 1965年
- 北陸支部 1964年
- 九州支部 1968年
- 沖縄支部 1984年

●おわりに●

このようにして、QCサークルは日本で誕生しました。1961年7月に行なわれた『品質管理』誌の企画、職場の職・組長さんの座談会において「第一線で働くわれわれにも気やすく読めて、QCの勉強ができるような雑誌をつくってほしい」、「われわれも品質意識、問題意識、改善意識をもっているのに、意見や考えを出す場を設けてほしい」との要望から、現在の『QCサークル』誌が生まれ、QCサークルが生まれたのです。このように向上心に燃えた先駆者がいなければ、もしかしたらQCサークルは誕生しなかったかもしれませんね。